

＜ 2011年農林水産研究成果10大ピックアップ＞  
農林水産技術会議事務局

＜タイトル＞

ピーマンモザイクウイルス病を予防する植物ウイルスワクチンを開発

＜当該研究成果のポイント＞

（独）農研機構 中央農業総合研究センターと（株）微生物化学研究所、（株）京都動物検査センター、京都府農林水産技術センターは共同で、ピーマンモザイクウイルス病を予防する植物ウイルスワクチンを開発した。

本研究は農林水産省委託プロジェクト研究「生物機能を活用した環境負荷低減技術の開発」および新たな農林水産政策を推進する実用技術開発事業「臭化メチル剤から完全に脱却した産地適合型栽培マニュアルの開発」で実施された。

＜期待される効果・今後の展開など＞

ピーマンモザイク病は、日本各地で発生し、大きな被害をもたらしている。本病の防除に有効な臭化メチル剤は、オゾン層を破壊することから原則廃止となったため、開発した植物ウイルスワクチンは臭化メチルの代替技術として期待される。また、ワクチン処理によりピーマン果実中のビタミンC含量を高める効果も期待される。

現在、本ワクチンの生物農薬としての登録を目指している。

＜研究所名＞

（独）農研機構 中央農業総合研究センター、（株）微生物化学研究所、（株）京都動物検査センター、京都府農林水産技術センター

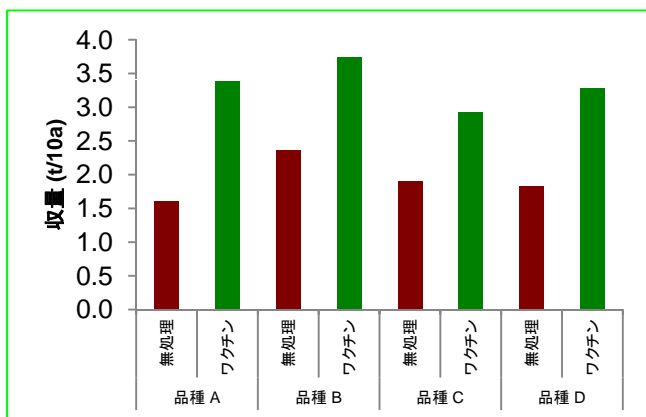
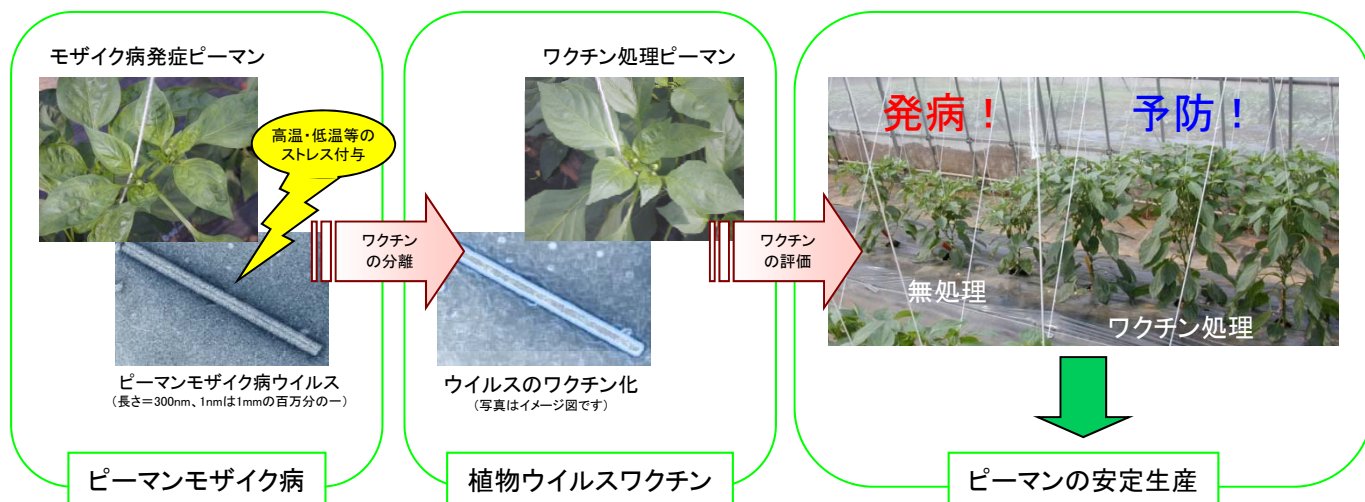
＜担当者名＞

（独）農研機構 中央農業総合研究センター 病害虫研究領域	津田新哉	TEL:029-838-8930
（株）微生物化学研究所 技術企画部	安原壽雄	TEL:0774-22-4518
（株）京都動物検査センター 業務部	奥村 融	TEL:075-612-0861
京都府農林水産技術センター 生物資源研究センター	小坂能尚	TEL:0774-93-3525

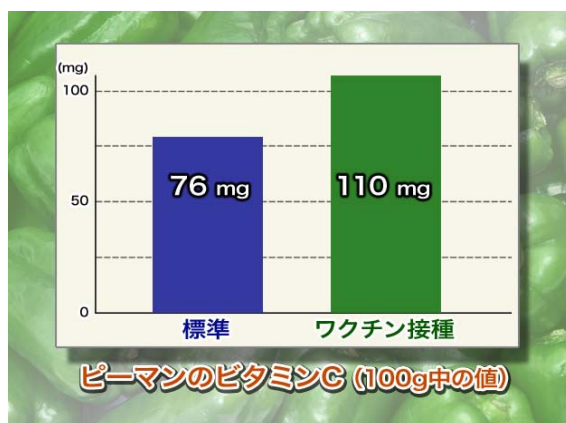
＜連絡先＞

（独）農研機構 中央農業総合研究センター 情報広報課長	関谷修三	TEL:029-838-8979
--------------------------------	------	------------------

土壌伝染するピーマンモザイク病に卓効を示す臭化メチル剤は、地球のオゾン層を破壊するため2013年から全廃されます。そこで、臭化メチル剤の代替防除技術として植物ウイルスワクチンを開発しました。



半促成栽培での防除効果



☆ピーマン果実のビタミンC含量を約1.4倍高める☆  
 <100%レモン果汁(50mg/100g)の2.2倍に相当>